

平成28年度

保護者向けセミナー開催のご案内

～みんなで、一緒に考えよう～

講師による講話のほか、同じ悩みを抱える方々同士の交流や情報交換等をしていただく時間を設けています。「親子関係はどうあったら良いのか」、「子どもとどう接していけば良いのか」、「解決に向かうにはどうしたら良いのか」など、一緒に考えていきませんか？

11月のセミナー 平成28年11月19日（土）

セミナー講師：心の健康相談室こだちのもり

心理カウンセラー 熊谷 香菜江氏

テーマ：「父親が変われば、子ども変わる!？」

- 内容：① コミュニケーションのニガテな子どもと共に取り組む就労。
② はたして自分はどんな親なのか？を知る。エゴグラム心理テスト。

【講師紹介】

光陽生協病院内の「心の健康相談室」に、常勤のカウンセラーとして約30年間勤務。定年退職後、保護者と共に、NPO法人 心の健康相談室こだちのもりを設立。相談者ひとり一人に合った方針を立て、関係諸機関と連携をとりながらよりよい支援をしています。

時 間：13:30～16:00

対 象：若年無業者のお子さんを持つご家族の方

定 員：20名 （申込み方法：事前に「サポステふくい」までお電話ください。）

場 所：福井県社会福祉センター内

内 容：講師によるセミナー・意見交換ほか

参加費 無料

サポステふくい（ふくい若者サポートステーション）とは…。

若年無業者の方の職業的自立支援を行う機関です。サポステふくいは、厚生労働省の委託事業で、福井県との協働事業として行っております。



9月開催のセミナーレポート

日 時：平成28年9月17日（土）

テーマ：「トラブルには、意味がある ～『困った、厄介だ』から、『解った、新展開だ』へ～」

講 師：前敦賀短期大学教授 龍谿 乗峰氏

先生は、これまで対応した2つのケースを紹介されました。1つ目は、「人の中に出ていくことが怖い」という相談者が、その気持ちを理解してくれる人や怖くない場所など、自分の考えを挙げてもらおうと、実際は孤立していないことや、行動に移せている自分に気づきました。それで、「人の中に出ていくことが怖い」と感じることは病気ではなく、通常でもみられる特性や個性であるとアドバイスすることで、これまで「おかしい」と思っていたことが、自分を尊重するものへと変わっていきました。

二つ目は、予知したことが現実起きてしまうという体験に悩む相談者の例です。これまで自分が予知したことを未然に防げなかったために、自分を責めていましたが、そのことを告白できたことで、自分には悪いことが起きていないことや、「近未来」のことでも救えないものだアドバイスすると、これまで抱いていた自責の念から開放されました。そして、予知というものは、一般的に大半の人も体験するものだと言すと、自分だけの悩みと思っていた孤立感からも解放されました。

この2つの例から、まとめとして青年期の社会性を獲得する過程では、“ゆらぎ”と“偏り”が見られ、それは非社会性や反社会性といった行動となって現れることがあることを言われました。参加者の質問に対して、先生は相談を受ける上で、“変化”を聴くということに気を配っているとのことでした。ひとつの面を見て判断するのではなく、変化に気づくと明るくなったり、積極性が出てくるようになって、全体的な改善に結びついたそうです。

【お問い合わせ】サポステふくい（ふくい若者サポートステーション）

福井市光陽2丁目3-22
福井県社会福祉センター1F

TEL 0776-21-0311